日仏討論会

with/post コロナ社会に生きる

リビングラボを中心に、都市のレジリエンスを高める

Débat franco-japonais :

Innovation ouverte et résilience des villes à l'ère du Covid et pour un monde post-Covid

2020.11.7 ㊏ 16:00–18:00

le samedi 7 novembre 2020 | 16h–18h

アンスティチュ・フランセ東京
Institut français du Japon - Tokyo

リアルとオンライン配信 | 要事前申し込み | 日仏同時通訳付 | 参加費無料

Événement présentiel et en ligne
Interprétariat simultané
Entrée libre
Inscription en ligne recommandée : **https://www.institutfrancais.jp/covid/**

AMBASSADE DE FRANCE AU JAPON
INSTITUT FRANÇAIS
OPEN YOKOHAMA
VEOLIA

with/post コロナ社会に生きる

リビングラボを中心に、都市のレジリエンスを高める

Innovation ouverte et résilience des villes à l'ère du Covid et pour un monde post-Covid

新型コロナウィルス（COVID-19）の感染拡大が地球規模で見たときに収束していく兆しがいまだに見えない中で、感染拡大防止に向けた取り組みも長期化が余儀なくされようとしています。こうした国難ともいえる未曽有の難局を乗り切っていくためには、市民一人ひとりが顔を上げて前を向き、共に支え合いながら未来を見据えた具体的なアクションを起こしていく必要があるのではないかと考えています。産官学民の多様な主体が連携し、データを駆使した対話と革新的なテクノロジーを導入した実践によって、新型コロナウィルスがもたらした社会課題に対して新たなソリューションを生み出し、新型感染症の拡大など様々な危機に対する大都市のレジリエンスを高めていくため、3日間に亘り横浜から国際的な対話のプログラムを開催します。この「日仏討論会」は、その一環として開催されるものです。

［パネリスト Panélistes］

（敬称略）

レティシア・ランキュレル［リヨン市Tuba局長］

Léthicia Rancurel, Directrice de TUBA

Tuba（都市実験の試験管の意）と呼ばれるリヨン市のコンソーシアムの局長。パリ大学と米カルフォルニア大で博士課程、国際マーケティング政策修士号取得。国際的大組織で20年以上経営に携わった後、2014年より現職。持続可能な都市の実現に向けて、テック、デザイナー、心理学者、イノベーション経営の専門家らから成る10数社のパートナーとより快適な都市生活のソリューションを考案するTubaを率いる。［**フランスからオンラインで登壇**］

大澤幸生［東京大学大学院システム創生学教授］

M. Yukio OOSAWA, Professeur au Département d'innovation des systèmes, Ecole d'ingénieurs de l'Université de Tokyo

1995年東京大学工学研究科で工学博士を取得。2009年より同教授。知能情報学とデザイン学、認知科学の境界にあるチャンス発見学およびデータ市場設計学を自ら創始し国際会議などを開催。人工知能学会功労賞など受賞多数。開発したデータジャケットはデータ駆動イノベーションの基盤要素として、データカタログ作成ガイドラインver1.1（2019）の第2部を構成する。人工知能学会の全国大会プログラム委員長、国交省「先進的技術を活用した不動産鑑定評価に関する有識者委員会」委員、東京都「第四次産業革命推進委員会」委員などを歴任。

田口真穂［横浜薬科大学レギュラトリーサイエンス研究室講師］

Mme Maho TAGUCHI, Maître de conférences, Laboratoire de pharmacologie clinique, Université pharmaceutique de Yokohama

横浜市立大学大学院医学研究科前期博士課程修了。薬学博士（岐阜薬科大学）。薬剤師。建築物環境衛生管理技術者。第一種衛生管理者。日本薬学会代議員、日本緩和医療薬学会研究推進委員、日本社会薬学会、文部科学省学校環境衛生基準検討委員会委員日本緩和医療薬学会優秀論文賞受賞（2019）。専門は、社会薬学、レギュラトリーサイエンス。地域医療、学校保健衛生管理、地域包括ケアシステムに関する研究。地域のリビングラボのメンバーとして、とつか未来会議を開催している。

大矢美佐［医療法人社団恵生会竹山病院病院長］

Mme Misa OOYA, Directrice de l'hôpital Takeyama

1993年聖マリアンナ医科大医学部卒業後、同大学第2内科（循環器内科）に入局。心臓血管研究所附属病院にて臨床研究を行い、医学博士取得。大学病院のほか、規模・機能が異なる複数の病院で経験を積む。1996年から非常勤として竹山病院でも診療を行い、2005年に常勤に移行。2010年から現職。同院の病床を地域包括ケア病棟に順次移行するなど、時代や地域のニーズを踏まえた病院運営に取り組んでいる。循環器内科を専門とし、予防医学やエイジングケアなどにも詳しい。

近藤早映［東京大学先端科学技術研究センター特任助教］

Mme Sae KONDO, Professeure assistante, Centre de recherche avancée en science et technologie, Université de Tokyo

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士後期課程修了、博士（工学）、一級建築士。JR東海コンサルタンツ株式会社で愛知万博「JR東海リニア館」の意匠設計を担当。2018年より現職。主な研究テーマは、地方都市活性化、協働や交流の市民拠点の在り方、市役所の協働拠点性、保育施設とまち、リビングラボの「共創」スキーム。まちを舞台に意識改革を興す「ソーシャル・マドラー」を提唱し実践中。

［**司会** Modérateur］

関口昌幸［横浜市政策局共創推進課］

M. Masayuki SEKIGUCHI, Ville de Yokohama, Bureau des politiques de la ville

2012年から横浜市政策局政策支援センターにて、「市民参加型の課題解決の実現」「地域経済の活性化」のためにオープンデータ活用を推進。行政のデータと民間が持つ情報をマッシュアップすることで、社会課題や市場ニーズを可視化し、課題解決のために産官学民が連携するオープンイノベーションの仕組みづくりを行う。現在は、同市政策局にて、子育てや介護分野における共創の取組を推進し、市民と行政、企業が地域課題を解決し、事業を創造するリビングラボを市内各地で展開している。

▲（左から）レティシア・ランキュレル氏、大澤幸生氏、田口真穂氏、大矢美佐氏、近藤早映氏、関口昌幸氏

イベント概要

with/post コロナ社会に生きる

リビングラボを中心に、都市のレジリエンスを高める

11月7日（土）｜16:00-18:00

［日仏同時通訳付｜参加無料｜リアルとオンライン配信］

会場で聴講ご希望の方は、お座席40席と限りがありますので、事前にお申込みください

会場：**アンスティチュ・フランセ東京**（東京都新宿区市谷船河原町15）
問い合わせ：**アンスティチュ・フランセ日本　書籍・グローバル討論部門**
dg.debat.contact@institutfrancais.jp
www.institutfrancais.jp/tokyo/

関連イベント

■World Living Lab～世界青年経済人会議～

11月6日（金）｜11:45–13:00［参加無料｜リアルとオンライン配信］

会場：横浜新市庁舎アトリウム（神奈川県横浜市中区本町6-50-10）
問い合わせ：justice-ax-k@s2.dion.ne.jp

■とつか未来会議　防災について平時からの連携をみんなで考える

11月8日（日）｜13:00-17:00［日仏逐次通訳付｜参加無料｜要事前申し込み］

4つのテーマ（医療、子育て、介護、障害）のフューチャーセッションに
フランス人研究者も参加、フランスのコロナ対策についての発表有り

会場：戸塚区総合庁舎3階多目的スペース（横浜市戸塚区戸塚町16－17）
問い合わせ：とつかリビングラボ（Tel.045-851-1311）

共催：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、横浜市　オフィシャル・パートナー：ヴェオリア・ジャパン株式会社
Co-organisateurs : Ambassade de France au Japon/Institut français du Japon, Ville de Yokohama　**Partenaire :** Veolia Japan

Design: Miya Kazunori